

我が家のみかん

神奈川県湘南白百合学園小学校

五年 内山 真生子

我が家には、私が生まれた時からずっと取り寄せているみかんがあります。正確に言うと、今年で三十八年にもなるそうで、私の母が小さい頃からずっと食べているのです。

和歌山県でみかんを中心として果実を作っている小林農園というところのもんです。見た目は形も様々で、傷もついたり、決して立派な雰囲気があるわけではありません。皮もすごく薄いので、きれいにむく事もできにくいのです。でも、食べるとびっくりするくらい甘く、とても濃い味が口いっぱい広がります。ずっとこのみかんを食べていた私は、どこのみかんも同じ味だと思っていました。ある時他のみかんを食べて、同じ種類の果実でも、作る人達や場所によって、味は全然ちがってくるのだということを実感しました。

今は、オーガニックというのが流行にもなっていますが、この小林農園は昔からずっと無農薬で、一つ一つ大切に育てているのです。ですから、その年の天候によっては少ししか収穫できない時もあるそうで、冬に我が家に届くみかんの箱の大きさも数もまちまちなのです。売り上げ、という事を第一に考えたのならば、見た目を良くするための工夫や、虫がつかないための農薬の使用などをしているはずですが、小林農園は食べる人の身体の事を考え、昔ながらの栽培の仕方こだわっているそうです。

私は、食べる物を美味しいと感じるかどうかは、作っている人がそれを食べる人の事を、どれだけ考えてくれているかによると思います。心がこもっているものは、きちんと味になって伝わるのです。小林農園の方達は、東日本大震災の時にも食べ物を心配して野菜を送って下さいました。

和歌山は遠いですし、小林農園の方に直接会った事はありませんが、毎年みかんの箱が届くと、何か温かい思いがします。